



花かご便り 2021年1月号

作品出展者(掲載順)

【俳句】 ドンゴンみきの、翁長なおみ、土屋和子、ツルー玲子、星きみえ

【エッセイ】 中島公子、中山まり子、武井よしこ



【俳句】



ドンゴンみきの

籠のとり 人の声きく 冬の窓 (選)

外出自粛で籠の鳥のような気分の中、窓の外から歩く人の声が聞こえてきました。

葉が落ちて 淋しき庭に 柿ひとつ

木の葉が全て落ちて花もなく寂しい冬の庭に、柿が1つだけ枝に残っていました。

北風に 吹かれて踊る 落ち葉かな

家の中から、強い北風に落ち葉が舞い上がっていました。



翁長なおみ

初春や風清らかに空澄みて

元旦に、お雑煮を仏前にお供えして、新しい空気を入れようとドアを開けると、新鮮な空気と風が家に流れ込み、新しい年を寿ぐ気持ちになりました。

腰痛と共に越したの去年今年(こぞ、ことし) (選)

暮れの掃除のときに腰を痛め、健康のありがたさをしみじみと思います。
夏井いつき先生推薦の一句に、「じゃんけんに 負けて蛭に 生まれたの」があり、俳句はもっと自由でいいのだなとうれしくなりました。



土屋和子

今年こそ願ってかける壁曆

コロナが収束し普通の生活が戻ってきます様にと願いながら掛ける。

冬時雨ワイパースイッチ何処にやら (選)

この冬初の俄雨が降ってきた。ワイパースイッチ どれだったっけと大慌て。

短日やあれもこれもで終わる日々

冬の日があっという間に暮れてしまう。

牛年にちなんでのんびり初歩き

今年の干支を言い訳にスローワーキング。

花の木を痛める人よ何思う

サンフランシスコの日本街の桜の木、二本が折り倒された、誰が、なぜ？



ツルー玲子

木枯らしや 空とび回る 小鳥たち (選)

朝の散歩で、寒さにもめげず飛び交う小鳥たちを見ると、力づけられます。

裏庭で とそとお節の 元旦や

友人のお宅で距離を取りながら裏庭でお正月を祝い幸せでした。

情けなや どこまで落ちる 我が国は

雪国の お雑煮作り 分かち合い

新潟のお雑煮は寒い国にふさわしく、いろいろな具がたくさん入って、カロリーの十分なお雑煮、ご近所の方たちに喜ばれました。



星きみえ

きぶく

着膨れてシスコの坂を登る朝

季語：着膨れ（冬） 寒い朝たまたま歯医者に行く夫についてサンフランシスコのユニオン広場あたりに出かけました。夫は歯医者に消え、私は特に行きたい所もなく高い所から海でも見たいなあと思い坂を登って行きました。ちょっと登ったら頂上かと思いきや、また次の坂が現れ、なかなかテッペンに出なくて往生しました。

一茶忌やわれにやさしき母ありて (選)

季語：一茶忌（冬、旧暦 11 月 19 日） 江戸時代の俳人小林一茶は 3 歳の時母を失い、継母との折り合いが悪く幼い時から大変な苦勞を強いられた。その苦勞とかなしみが玉の様な俳句になって後世に残された。この世に偶然というものがないならば、一茶の苦勞はあるべくしてあったものと思われる。私などはちっとも苦勞をしておりません、はい。

ふゆば

冬晴るる日曜午後の父子クラブ

季語：冬晴れ（冬）雨が降った翌日のよく晴れた午後、エルサリートの丘にハイキングに行きました。途中で小学3～4年生位の年頃の子供達7、8人とその父親らしき男の人達がワイワイ言いながら元気よく私達を追い越して行きました。すると途中でその中の男の人が子供達に何か見せながら話をしています。とても楽しそうで良い雰囲気でした。家に残ったお母さん達は大喜びでしょうね。



【エッセイ】



「木星土星」

中島公子

木星と土星が800年(?)ぶりに大接近、地球から裸眼でも見られるとのニュースがあった。知人から「自分は必ず見ようと思っているが貴女は？」と聞かれて、「それでは、暇なことでもあるし」と腰をあげた。これまで天体について特別な興味を持ってきたわけではない。月蝕、日蝕、流れ星、もしくは流星群到来などわざわざ外に出向いて観測する勤勉さはなかった。今回は冬ながら特別寒いわけではなく、時間的にも都合良く、散歩がてらの気安さだった。

ゲートを出て車道を緩く上って行き、交差点で街灯の列が途切れたところで立ち止まった。見上げると宵の明星を凌ぐ大きな明るい星、しかも直ぐ左上に小さな星が寄り添っている。間違えようはない。「見える、見える、あそこ、あそこ！」と指差し興奮した声をあげた。つられて夫が「どこどこ、あっ見える！」。2人して「ふーん」と見入っていた。脇の車道には、ヘッドライトを光らせた車が、ビューンとこともなげに走ってゆく。反対方向からも。

フッと白珠(しらたま)、久遠(くおん)、という言葉が頭にうかんだ。星と白珠がどう結び付くのか自分でも分からない。久遠は滅多に日常では使われない文学的で美しい言葉だ。「歌の世界から来ているのだろうか」、「俳句をする人にはどうだろうか」など取り留めなく思いが巡った。2つ並んだ白珠は美しく、愛らしく、珍しかった。

星、地球の命は万年、億年、光年で測り、私の存在とは比べようない。だが圧倒的なその存在もそれに感動する小さな心があって初めて何かとつながる事ができるのではないか。偉大な存

在はそれ自体だけでは孤独で寂しいのだ。久遠の太古から生まれている星がもう1つの星に近づき、たまたま久遠の彼方から小さな小さな私達に見られたというご縁。24時間後にはもう離れて行ってしまふ。捉える事の出来た瞬時に喜ばただけでなく、もの思いする心を私に植え付けた。

そういう2つの存在に出会ったことを忘れずに書き留めておきたかった。



「三田さんとケン君」

中山まり子

私は片付けものをするのは好きだが、掃除は好きではない。重たい掃除機をヨイショとクローゼットから引っ張りだし、コンセントにコードをさして、ガーガーと大きな音をたてて、引きずりまわる、あの作業が嫌いなのだ。家具を動かしたり、カウチの下にもぐったり、ホースを取り換えたり、コードをまいたり、はたまた、重たい図体を抱えて階段を上がったたり、降りたりする行為は私にとって苦痛以外の何者でもない。それで、つい、掃除を後回しにしたくなる。何か理由を見つけて、さぼりたくなる。すると、当然、部屋は汚れるので、ますます掃除が嫌になるという訳だ。アメリカの掃除機が日本製に比べ、大きく、重いせいかもしれないと思い、我が家の掃除機は買い替え毎に少しずつ小さく軽いものになっていったが、私の掃除嫌いは変わらなかった。

少し明るい光が見えたのは7年くらい前のことだ。結婚したての若いカップルの家に行った時、掃除機ロボットを目にした。ずっと以前、雑誌の記事か何かで見たことがあったが、こんなに早く実用化されているとは知らなかった。聞くと、なかなか使い勝手がいいという。早速、手に入れた。そして、感心した。体重計を少し大きくしたくらいの円盤状のこのお掃除ロボット、実によく働いてくれる。障害物にぶつかると、何やらじっと考えて方角を変え、これでもか、これでもか、という風に忍耐強く、しかも、陰日向なく真面目に掃除をする。スイッチを入れて外出し、帰ってくると部屋がきれいに掃除され、床がピカピカになっているのは気持ちがいい。思わず、ありがとう、ご苦労さんと言ってしまふ。「家政婦の三田」というその頃日本でヒットしたテレビドラマにちなんで、我が家ではこのロボットを「三田さん」と呼ぶことにした。三田さんは、今では我が家にはなくてはならない存在となった。しかし、彼女は、ゆっくり、のんびりと、しかも床だけしか掃除をしない「人」ので、高いところや、奥まった所や、さっさと掃除したい所には、やはり、昔ながらの掃除機が必要になる。

ところが、先月、それまで使っていた掃除機が急に動かなくなった。そろそろ買い替える時期が来たのかもしれない。早速、アマゾンで新しいクリーナーを調べてみた。すると驚いた。何と私の知らないうちに、世の中の掃除機の形態はすっかり変わっていた。40数年前アメリカに来た時に驚いた、あの信じられないほど重たい、けれど頑丈で強力なアップライト式掃除機はいつのまにか姿を消し、今や、軽さと使いやすさを誇るコードレス掃除機がもてはやされている。

そこで、いろいろある中で、やはり軽さに一番こだわって、130ドルくらいのケンモア製のをオーダーした。早速送られてきたコードレス掃除機を半信半疑で使ってみると、これが、なんと、すごく使いやすい。充電式なので、コードを引きずり回す必要もない。ゴミも備え付きのプラスチックカップにたまるので、専用のバッグを買ったり、とりはずしたりする手間もない。力のない私でも、片手でスイスイと動かせるので、掃除が信じられないくらい楽だ。いや、変わったのはそれだけではない。一番大きな変化は、あんなにおっくうだったバキューム・クリーニングが今や楽しくて仕方なくなったことだ。毎朝、毎夕と言わず、思いついたらホイホイと、コードレス掃除機を片手にあちこち掃除してまわっている。そして、カップにたまった埃をしげしげと見ては、一人悦に入っている。これは、まさに我が家の掃除大革命だ。ウェルカム ケン君！



「チョー面倒くさい！」

武井よしこ

自分用にクリスマスプレゼントとして、スマホを買った。マスクをつけて息子と店に行く。その時点で私には難解不明な会話が息子と売り子の間にあった。

私はいわゆる、ガラ系を使っていた。ガラ系でも私には世間との妥協であった。その頃は家に家電(いえでん)もあった。電話番号を2つ使っていた。仕事を引退し、まず家電を解約した。別に不便はなかった。朝起きるとすぐパソコンを開くので、メールもチェックできた。

しかし、息子も孫もなにやら、手のひらサイズの四角い電話に夢中である。道を歩いている人も片手のスマホに夢中。日本へ帰ると、電車の中は皆スマホタイム。アフリカのモロッコへ行った時も現地の観光業者、旅行者全てスマホを持っていて、「自分は完全に世の中から遅れている」と再確認した覚えがある。10年くらい前だ。

どうやら、スマホには世界の神秘と宇宙の謎が入っているようである。私は考えた。あと何年生きるのか知らぬが、スマホに挑戦するべきか、否か。そもそも、今時こんなスマホ初歩の考えが遅れているのだが、この過去2年、夫の死と私のガン治療で、私は全く世の中から外れて生きていた。「世間と関係なく生きたい」などと本気で考えることもあるので、「スマホがなんぼのもんじゃない！」と思わなくもなかった。

そして今、スマホの使い方を Youtube で学んでいるのだが、、、。解らない。じれったい。「あーっ、何が言いたいのか！」と Youtube で説明をする若者に叫んだりしてる。英語で試してみる、解らない。日本語サイトに行ってみる、解らない。自分の知能が一気に50%くらい落ちた気になる。そこへちょうど、友人から電話がある。苦境を訴える。「ポケ防止と思って気長にやればいいよ。」あまり、ありがたくない励ましを受ける。

iPhone、iPad、iPod、いろいろあるのね。OS が operating system の略なんだそうだ。それがどうした、といえはそれまでですが。私の友人に（多分私と同世代男子）初めてパソコンを買って、どうしていいのかわからず、とりあえず分解してみたという猛者（変人）がいたけど、それくらいパソコンは困り者。でも、すごい機能がある。

先日は早速私もイヤホンをつけて、YouTube のお話し（芥川とか）を聴きながら散歩した。今のところこれはなかなかいい。ただ、家に帰ってきた時、どこをどう歩いてきたのかよく解らなくなっていたのには驚いた。

昨夜は、日本にいる姪が「Line で話そう」と言うので、この理解できぬ Line を探し、メンバーになった。これには、なんとあのバーコードを使用するのだ。貴重な夜の数時間を費やした。それなのに、それなのに、私も姪も Line でお互いの名前が探せない。疲れる！せめてパンディミックさえなければ、面と向かい合って、それこそ手に手をとって、教えてもらえるのに。こんなところにも、コロナが恨めしい。

ああ～、どうなって行くのでしょうか。私とスマホの蜜月は、私ばかりがヤキモキしている。



～END～